

12月



新羽小だより

令和4年(2022年)11月30日

第583号

横浜市立新羽小学校

Tel 543-8871 Fax 543-2915

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nippa>

「地域連携」に思う

校長 佐藤 恵子

11月11日金曜日、新羽中学校において、令和4年度第2回新羽小中合同学校運営協議会を開催しました。6時間目の授業を参観し、その後委員の皆様、小中の職員（代表者）で意見交換会を行いました。

授業参観では、どの授業でも、生徒は皆落ち着いて学習に取り組んでいました。Chromebookを上手に操作する姿、理科の静電気の実験にワクワクしながら取り組む姿、歌詞の世界を想像しながら美しく歌う姿、英語を使って自分自身を表現する姿など、頼もしい中学生の姿をたくさん見ることができました。また、どの授業でも学級全体の和やかな空気と生徒一人ひとりの優しさを感じ取ることができ、これが新羽を支えている大切な土台だと再確認しました。

その後行われた協議会では、学校と地域の連携について活発に意見交換をしました。「コロナ禍で地域行事が中断しているので、今後地域と学校のつながりをまた戻していきたい。」「地域を活用した学習は子ども達の地域愛を育てる。」「住みよい社会づくりが子ども達の心の安定につながる。」「昔は小中学生が防災訓練に参加していた。災害を想定したとき、地域の中学生の力は頼りになる。」「まちにあいさつの声を増やしたい。人と人が関わり合うまちづくりは、子どもの成長にプラスになる。」「コロナ禍を持続可能な地域連携のあり方を探る機会として、新たな形を考えていきたい。」「学校と地域がインターネットを活用してつながることはできないか。」などの意見が寄せられました。

新羽小学校は、登下校の見守りや授業の支援ボランティアなど、日常的に多くの保護者・地域の方にお世話になっています。また、どの学年でも地域を活用した学習を頻繁に行っています。私は、学校と地域の連携には、子育てにおいて三つの大切な意義があると思っています。一つ目は、身近な題材や本物を活用した学習活動の大切さです。目や耳から受け取る知識を自分の生活に結びつけ「自分事」として捉えること、五感をフルに使って本物に触れることは、子どもの好奇心を掻き立て、学習への興味関心を育てます。今後永遠と続く学びの土台となります。二つ目は、多くの人から受ける愛情が子どもの心の安定につながることです。人と人が関わり合う温かな風土は子ども達の健全育成を支えます。三つ目は、地域の良さに気づき地域愛を育てることで、そこに住む人々を大切に思ったり、自分もその地域の一員であることに誇りをもったりすることです。自己肯定感の高まりとともに、人の役に立ちたい、社会へ貢献したいという意欲を向上させます。



また、これからの地域連携のカギは「持続可能」であることだと思います。多様な価値観を尊重する時代です。目まぐるしく移り変わる社会において、誰もが無理なく参加できる仕組みを考えていく必要があります。今後も学校運営協議会を中心に、子ども達の健全育成につながる持続可能な地域連携について模索していきたいと考えます。